

夏のイベント★参加者募集!

地域の学びプログラム対象事業

中央図書館

1.親子deフックトーク【自由研究や読書感想文のヒントがいっぱい!】

日時：7月28日(木) 10:30~11:30
場所：入曽地域交流センター 2階 小ホール(A・B)
対象：小学校1~3年生と保護者 定員：15組(先着順) 費用：無料
申込み：7月15日(金) 10:00~ 中央図書館へ電話申込み

2.ちびぞう+(プラス)【おはなし会】

日時：8月13日(土) 14:30~14:50
場所：中央図書館 4階 視聴覚室
対象：3歳くらいから小学校2年生までと保護者
定員：8組程度(先着順) 費用：無料
申込み：8月5日(金) 10:00~ 中央図書館へ(電話申込可)

狭山台図書館

3.わくわくサイエンス【ピンホールカメラとレンズカメラの実験】

日時：8月14日(日) ①13:00~14:30 ②15:00~16:30
場所：狭山台図書館 2階 視聴覚室
対象：①小学校1~2年生(要保護者同伴) ②小学校3~6年生
定員：各回8名(先着順) 費用：130円
申込み：7月23日(土) 10:00~ 費用を持って狭山台図書館窓口

4.でかぞうクラブ【マラカスの工作とおはなし会】

日時：8月21日(日) 14:30~16:00
場所：狭山台図書館 2階 視聴覚室
対象：小学校1~3年生
定員：8名(先着順) 費用：無料
申込み：8月13日(土) 10:00~ 狭山台図書館へ(電話申込可)



※全イベント、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、日程変更や中止の場合もありますので、図書館のホームページをご確認ください。

図書館のホームページから、読みたい本の予約ができます。休館日や開館時間、イベント等の最新情報もこちらからご確認ください。

狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646

狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801

狭山市公式HP <https://www.city.sayama.saitama.jp/>



よむぞうタイムズ 84号

1年生 2年生

狭山市立図書館 2022.7.15発行

よむぞうがなつやすみにおすすめするのは

「しょくぶつ」がでてくるほんだぞ。
ちいさなたねから大きな木まで、いろいろな
しょくぶつをあつめたよ。



「はちうえはぼくにまかせて」(ESグ)

ジーン・ジオン/さく、マーガレット・プロイ・グレアム/え
もり ひさし/やく ペンギン社



なつやすみのあいだ、きんじょの^{ひと}たちのはちうえのせわをすることにしたトミー。いっしょうけんめいおせわをしたら、しょくぶつはどんどのびて、いえのなかがジャングルみたいになっちゃった!

「ひまわり」(EKア)

荒井 真紀/文・絵 金の星社



とても^{ちい}小さいたねから、たいようみたいに大きなはながさくひまわり。
あの大きなはなは、たくさんの小さなはがあつまってできているんだって。



<さやまの100冊>

「子どものときに読みたい本100冊」は教育委員会がおすすめしている本です。



「ガブリエリザちゃん」(ESレ)

H・A・レイ/作, 今江 祥智/訳
文化出版局

しょくちゅうしょくぶつのがぶリエリザちゃん。なんでもガブリとたべちゃうので、ホワイトはかせのけんきゅうしつにいる人たちはおおよわり。

そんなあるひ、けんきゅうしつにやってきたのは・・・



「おぼえていろよおおきな木」(JEサ)

佐野 洋子/作・絵 銀河社・講談社



ことりがうるさいのも、はっぱがおちるのも、み～んなこの木のせいだ！

大きな木の下にすんでいるおじいさんは、おこってばかり。

あるとき、いかりにまかせて木をきりたおしてしまったんだ。



「ナニカのたね」(JEシ)

正道 かほる/さく, 堀川 理万子/え
佼成出版社

いたずらまじょがそらからおとした「ナニカのたね」。

やがて大きな木になり、たくさんのみがなった。

このみはたべられるのかなあ？



「ロサリンドの庭」(JSベ)

エルサ・ベスコフ/作, 菱木 晃子/訳
植垣 歩子/絵 あすなろ書房

からだのよわいエリックのたったひとつのたのしみは、じぶんのへやのきれいなかべがみをながめること。

そんなあるひ、かべのなかからふしぎな女の子があらわれた。



「ジャックと豆の木」(EJシ)

ジョン・シェリー/再話/絵
おびか ゆうこ/訳 福音館書店

たったいっとうのだいじなめうしを、まめとこうかんしてしまったジャック。ところがそのまめは、まほうのまめだった。



「ワングリの平和の木」(EEウ)

アフリカでほんとうにあったおはなし

ジャネット・ウィンター/作
福本 友美子/訳 BL出版

大きなたてものをつくるのに、たくさんの木がきられてしまったケニア。

みどりをとりもどすため「いっしょに、きぼうのたねをうえていきましょう」

ワングリのことばで、女の人たちがこうどうをおこします。

